



令和2年度

ちょっといい話

清流の国ぎふ

日々の生活の中で、ほんの少し相手のことを思っただけだ。「言葉」や「行動」に、まわりの空気が温かくなったという経験はありませんか。

また、あなたがつらかったとき、苦しかったときにかけられた「言葉」や「行動」が励みになった経験はありませんか。

このような身のまわりで経験した心温まる出来事を「ちよつとい話」として、令和2年7月1日から9月11日まで募集したところ、小学校28校、中学校19校、高等学校7校、特別支援学校1校で取り組みいただき、一般の方からの応募も含め243作品を寄せていただきました。そこには、

- ・正直、誠実、責任、勇氣
- ・友情、信頼、献身
- ・克己、忍耐、努力
- ・思いやり、絆
- ・尊敬、感謝
- ・家族愛
- ・命の尊重

といった思いが込められています。

そうした中から、80作品を紹介させていただきます。

人を思いやる心や人と人とのつながりを感じていただいて、県民一人ひとりが共によく生き合う力をはぐくむ機会となれば幸いです。

※作品の小学生・中学生・高校生には、特別支援学校の小学部、中学部、高等部の児童・生徒を含んでいます。

【もへじ】

「小学生」

ちっちゃなかんごし

・
・
・
1

Hならだいじょうぶ

・
・
・
2

わたしとあさがおはいっしょ

・
・
・
3

みんなおうちだいすき

・
・
・
4

えがおのループ

・
・
・
5

カレーライス

・
・
・
6

まちがえた

・
・
・
7

め

・
・
・
8

思いやり

・
・
・
9

入学にゅうがくしきのハンカチ

・
・
・
10

お姉ねえちゃんのことば

・
・
・
11

わたしのおとつと

・
・
・
12

クリスマスのまえの日

・
・
・
13

お父さんへの手紙

・
・
・
14

横だん歩道で

・
・
・
15

わたしのじまんのお母さん

・
・
・
16

ドーナツを半分こ

・
・
・
17

とどいたよ

・
・
・
18

かえるさん 元気でね

・
・
・
19

初めておとうさんと2人ごはん

・
・
・
20

魔法の言葉

・
・
・
21

私の妹

・
・
・
22

勇気を出して

・
・
・
23

みんなのやさしさ

・
・
・
24

ベンチ

・
・
・
25

まほうのよじなあいさつ

・
・
・
26

ありがとう

・
・
・
27

ひやくえん
百円

・
・
・
28

ぶん^{だん}団きでありがとう

・
・
・
29

お父^{とう}さんが鼻歌^{はなうた}を歌^{うた}いだした日^ひ

・
・
・
30

障^{しょう}がいのある方^{かた}へのやさしさ

・
・
・
31

当^{あた}り前^{まえ}のことだけど…

・
・
・
32

笑顔^{えがお}であいさつ

・
・
・
33

ひいおばあちゃんのために…

・
・
・
34

今^{いま}だからできたこと

・
・
・
35

さすが、お姉^{ねえ}ちゃん

・
・
・
36

知らなかつた同級生^{どうきゅうせい}の行^{こう}動^{どう}

・
・
・
37

かるくなつた心^{こころ}

・
・
・
38

ちゅうがくせい
[中学生]

わたし
私と友達

・
・
・
39

はは
母が言^いつた言^{こと}葉^は

・
・
・
40

「卒業」と書かれたオムライス

小さな応えん団

見ていない所で

ありがとう

悪口を言われていた私に

傘にかくされた思い

大きな宝物

家族が笑うこと

誰かのために出来ること

自分らしさ

みんなのために頑張る人達

言葉遣い

この身長だからこそ

相手を優先できる仲間

あの日、父と交わした約束

・
・
・
55

・
・
・
54

・
・
・
53

・
・
・
52

・
・
・
51

・
・
・
50

・
・
・
49

・
・
・
48

・
・
・
47

・
・
・
46

・
・
・
45

・
・
・
44

・
・
・
43

・
・
・
42

・
・
・
41

手伝うよ

・
・
・
56

買い物での出来事

・
・
・
57

夏のサプライズ

・
・
・
58

励ましの言葉が新たな一歩へ

・
・
・
59

少しは休んでいいんだよ

・
・
・
60

ちよっとしたこと

・
・
・
61

ハンカチ

・
・
・
62

困っている人を見かけたら

・
・
・
63

お母さんの優しさ

・
・
・
64

おばあちゃんと葉書

・
・
・
65

何も言わない優しさ

・
・
・
66

「高校生」

やさしい事も心を救う

・
・
・
67

誕生日

・
・
・
68

おこなわ
大縄

しょうがくせい
小学生の優しさ

アイコンタクト

バスでのうれしかったこと

みつけた幸せ

わたしのこころ
私の心が優しくなるとき

れんしゅう
練習

わたしのじかん
私の時間

いっぴんのくさ
一本の草

まいあさのしごと
毎朝の出来事

ははのおんがひり
母のおんがひり

いっしょばん
【一般】

おもちゃのこころ
思いやりの心

・
・
・

80

・
・
・

79

・
・
・

78

・
・
・

77

・
・
・

76

・
・
・

75

・
・
・

74

・
・
・

73

・
・
・

72

・
・
・

71

・
・
・

70

・
・
・

69

小学生低

ちっちゃなかんごし

おばあちゃんが左手ひだりてのほねをおりました。「おばあちゃん、だいじょうぶかな。」としんぱいになりました。おかあさんは、おばあちゃんのおせわでたいへんそうです。わたしもおてつだいをしたくなりました。それから、おばあちゃんのほつたいをまくおてつだいをしたりしました。すると、おかあさんがわたしに、「ちっちゃなかんごしさんみたいだね。」といってくれました。わたしは、なんだかうれしいきもちになりました。



小学生低

Hならだいじょうぶ

わたしがかおにけがをして、おおきな
ガーゼをはって「がっこういきたくない
な。」といやなきもちでいたときに、お
かあさんにはなしたら、おかあさんが、
「もし、おともだちがけがをしていたら
Hはどつおもつっきつとだいじょうぶか
な。はやくなおるといいな。とおもつよ
ね。おともだちもおなじきもちだとおも
うよ。」Hならだいじょうぶ。」といっ
てくれて、わたし
はゆうきがわいて
きました。



小学生低

わたしとあさがおはいっしょ

しょうがつこうでそだてているあさが
おをいえにもってかえってみずやりをし
ていると、おばあちゃんが、

「まいにちおみずをあげないと、きれい
なはながさかないよ。ひとも、まいにち
ごはんをたべるのといっしょだよ。」
とおしえてくれました。

おはなしはできな
いけど、いっしょな
んだなあとおもいま
した。



小学生低

みんなおうちだいすき

かぞくでいたどりにいきました。

やまでのさまばつたをつかまえました。むしかごにいれておうちにもつてかえろうとおもいましたが、ばつたさんのおうちやかぞくとはなればなれになるのはかわいそうだからにがしてやりました。

うれしそうにと

んでいきました。



えがおのループ

おかあさんが、おしごとでこまっ
たとき、おねえちゃんがいえのことを
やってくれたり、ぼくのしゅくだいを
てくれたりしました。

ぼくは、おかあさんのおしごとが
わつたら、おかあさんにかたたたきを
しました。

みんながやさしいきもちになり
ました。えがおになりました。
ぼくのかぞくは、えが
おのループというたが
すきです。



小学生低

カレーライス

わたしのいえでは、いつもカレーライスはあまくちです。わたしは、いえのカレーライスがだいすきです。パパが、「たまにはからいカレーがたべたいな。」といいました。

でも、「かぞくみんなでたべるごはんはおいしいね。」といってすすすすじかんがたのしかったです。

わたしは、おおもりでおかわりしました。



小学生低

まちがえた

バーバが、こしをトントンとたたいて
いる。ぼくは、バーバのうしろにそうつ
といき、かたをトントンとたたいていた
ら「〇のばか。」とバーバにいわれた。
「あれ、まちがえた。」かたでなくてこし
だった。ぼくは、バーバのこしをたたき
ながらバーバとふたりでおおわらいしま
した。こしたたきがおわったあとで、

「〇、こしがらくに
なったよ。ありがと
う。」と、バーバが
いってくれました。



め

ぼくには、まだじょうずにしゃべれない2さいのいもつとがいます。ぼくのなまえは「M」なのに「R」とよびます。

そんなちいさいいもつとだけど、ぼくたちがおとうさんにおこられると、いもつとはおとうさんにおこって「め」といつてくれます。

「め」は「だめ」ということです。

ちいかわへんじょうしず
にしゃべれないけれ
ど、いもつとやわつとぼ
くのいもつとです。



小学生低

思いやり

わたしが学校で手をあげて、はっぴよ
うするときに、わたしが「話します。」
と言いつと、クラスのみんながわたしのほ
うを見てくれて、しずかに話を聞いてく
れてうれしかったです。

だから、わたしももだちがはっぴよ
うするときには、あい手の方を見てしず
かに話を聞くようにしたいです。じぶん
されてうれしいことは、きつとみんなも
うれしいことだと思つので、あい手の
ことをかんがえたり、思いやれるよ
うな人になりたいです。



小学生低

入学しきのハンカチ

入学しきのとき、おかあさんが、かわいいお花のついたあたらしいハンカチをくれました。おかあさんが、

「がんばってね。」

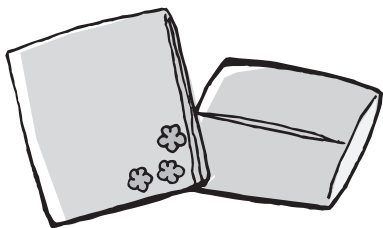
といってくれました。

おかあさんのかおはやさしい「ニコニコ」がおでした。わたしはうれしかったです。

そのハンカチをもらって「二年生がんばるぞ。」というきもち

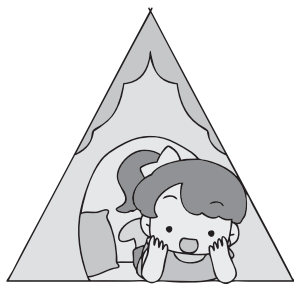
になりました。

いまでもそのハンカチをだいにしています。



お姉ちゃんのことば

にわにテントをたてました。よる、かぞくでねることにしました。はじめてなので、こわくてねれませんでした。お姉ちゃんがはげましてくれたけど、みんなおうちの中なかでねました。わたしがお姉ちゃんに、「ごめんね。」と言いうと、お姉ちゃんが「ねえねが、みちびくのが下手へたでごめんね。一回いっかい目のせいこうがはじめての日ひじゃなくていいよ。だからつぎからがんばろう。」と言いってくれました。わたしは、やるき気がでて、うれしかったです。



小学生低

わたしのおとうと

わたしと小学生の妹は、まい日おおかさんから「早く学校に行くじゅんびをなさい。」とおいられることが多いです。ある日いつものように早くじゅんびをなさいとおこっているおかあさんへ、2さいになるおとうとがとつぜんほっぺにちゅーをしました。おとうとはじゅんばんにわたしと妹へちゅーをしてくれて、あわてていたのにいつきに空気がなごみました。とつてもかわいいおとうとがいつもみんなをえがおにしてくれます。



小学生低

クリスマスのまえの日^ひ

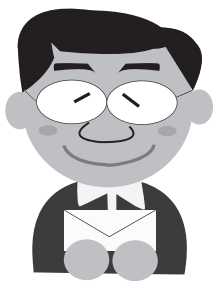
クリスマスのまえの日、ぼくは、サンタクロースがきたときに、きれいなところをおってもらいたいと思っ^{おも}たので、かぞくのみんなに「おそうじをしよう。」と言^いいました。ぼくは、まどがぴかぴかになるようにぞうきんでそうじをしました。おかあさんはそうじきをかけて、おとうさんは、ろうかのぞうきんがけをしました。きれいになって、サンタさんもきてくれたのでうれしかったです。



小学生低

お父さんへの手紙

ある日、お父さんがし事でなやんでいた事をお母さんに話をしてているのをたままきいてしまいました。ふだん私にはみせないひょうじょうだったので、おうえんの手紙を書きました。おふろに入っていたのでドアの所においておきました。でてきて手紙をよんでいました。そつと私に「ありがとうございます。」と言ってくれあれから数カ月たちましたが、お父さんのへやに入った時、その手紙がありました。いつまでも大事にしてくれて、うれしかったです。



小学生低

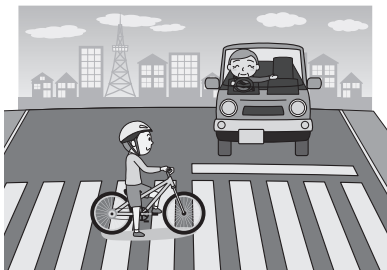
横おしだん歩ほ道ちゆうで

ぼくは、自じてん車しやで野や球ぎゆうの練れん習しゆうに行いつ
ています。横おしだん歩ほ道ちゆうをわたるとき、止と
まってくれた車くるまに、

「ありがとうございます。」

と言いいます。それを見みていたお母かあさんが
「車くるまの中なかの人ひとには聞きこえてないかもしれ
ないけど、伝つたわっているよ。止とまって
よかったと思おもってくれるよ。」

と言いってくれました。
ぼくもうれしくなりま
した。これからも続つづけ
ていこうと思おもいます。



小学生低

わたしのじまんのお母さん

わたしのお母さんは、わたしがねる前
かならずふとんの中で、

「だいきぎ、ぎゅっぎゅー。」
と、言ってだきしめてくれます。いやな
事があつた時やつかれた時もお母さんに
ぎゅーつしてもらつと、心があたたか
くなります。だから、わたしもお母さん
にぎゅーつのおか
えしをします。
お母さんもわた
しと同じ気もちに
なってくれるとう
れしいな。



ドーナツを半分こ

お父さんのドーナツが「こ足りなかつた時、お父さんに、

「ぼくのを半分あげるよ。」

と言って半分に分けたら、それを見ていた四才の弟が

「ぼくも半分あげる。」

と、ドーナツを半分こしました。

ぼくのやさしさが弟にも広がりました。

お父さんは、にこにこしながらドーナツを食べていました。



小学生低

とどいたよ

わたしは、コロナでも、お手紙てがみやにもつをとどけてくれる人ひとたちに、「コロナなのに、みんなのためにありがとうね。かんせんして shouldn't ね。」と書かいてポストにはりました。そしたら、クロネコさんが、「うれしいよ。」と手紙てがみを何なんにもくれました。ゆうびんやさんも、「うれしいやんかあー。」と言いってくれました。わたしは、気きもちが心こころにしまわせずにわたしたら、ちゃんととどくんだなと思おもいました。だからこれからも、たくさんの人ひとにありがとうをどげたいです。

いつも
ありがとう

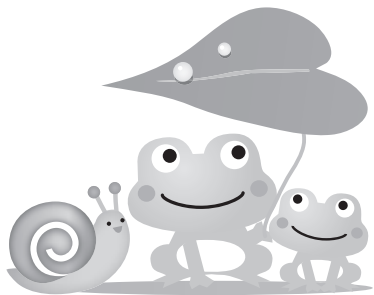
かえるさん 元気だね

おばあちゃんの家いえの近くちかの川かわでかえる
をつかまえて持もって帰かえりました。

ぼくはいっしょうけんめいにお世話せわを
していたけど、かえるはずすいと水すいそううで
ピョンとはねていました。

本当ほんとうは仲間なかまといっしょたのに楽たのしくすごし
ていたと思おもうとかえるがかわいおもいそうおに思おも
えました。

そしてかえるをにが
すことにしました。
にがした時とき、かえる
はうれしそうかえに帰かえった
ような気きがしました。



小学生高

初めておとうさんと2人ごはん

4連休の日、お父さんと初めて2人で
ご飯に行きました。誕生日でもないのに、
買い物や好きなご飯に連れて行ってくれ
て、なかなか話せない友達の話や学校の
話がたくさんできて本当に楽しかったで
す。帰ってお母さんに1日の出来事を話
してから、連れてってくれた理由を聞き
ました。いつもは弟2人の面倒を見て我
慢させていたので、ごほうびとして2人
でお出かけする時間を
作ってくれたそう、
その気持ちがとても
うれしく感じました。



魔法の言葉

三年生の三月に私の家族は、岐阜県に引っこすことが決まりました。「友達とはなれたくない。」そう思った時、担任の先生が「陸はつながっている。」
 「大丈夫。」と言ってくれました。その時なぜか心が落ちつきました。その言葉のおかげで勇気を出すことができ、H小学校でも友達を作ることができました。担任の先生のおかげでさみしくなつた時、今も心の中で「陸はつながっている。」と言いきかせると心が落ちつくので魔法の言葉だと思っています。



私の妹

二才下の私の妹はとてもやんちゃなと
きがあります。私の手には負えない困
た妹です。

先日、私のじいちゃんとはあちゃんの
家に二才半のいとこがあそびにきたので
すがなぜか妹になつていておむつまで
かえてほしいというのです。私にはそこ
まで言わずいっしょにあそぶくらいなの
でとてもおどろきました。

きっと私の知らない
ところがあるところがある
んだなと新しい発見
をしました。



小学生高

勇気を出して

大阪で電車に乗っていた時、満員で席があいていませんでした。そこへ小さい子どもをつれた、家族が来ました。ぼくは、「小さい子は、立つのがえらいから席を替わってあげようかな。」と思いましたが、でも、「ちょっとはずかしいな。」という気持ちもありました。でも勇気を出して、「席、すわっていいですよ。」と言いました。そうしたら家族はにっこり笑って座ってくれました。ぼくは、「言ってくれた。よかった。」と思いました。



みんなのやちしわ

わたしは、父と山登りに行ったときあまりにもきつすぎて、何回も休けいしました。その後、最後のかい段で足が上がりなくなりしました。その時、後から来たおばあさんが手をひいてくれました。やさしく押してくれました。頂上に着いたとき、とても景色がきれいでうれしかったです。姉と私でお礼を言つと、おばあさんはうれしそうにニコニコしていました。

見しらぬ人なのに
助けてくれたことが
とっても幸せに思いました。



ベンチ

これは数年前、遊園地に行った時の事です。ぼくは疲れてベンチにすわっていた時、自分の前におとしよりがいるのに気づいてせきをゆずってあげました。お母さんがたくさんほめてくれて印象に残っています。

この出来事から何年かたったあと、おばあちゃんと弟と公園に行きました。その時、弟がおとしよりにベンチのせきをゆずっているのを見かけ、びっくりして理由を聞くと「Mがやってたから。」と言われ心が温かくなりました。



まほうのようないさつ

私が三年生の時です。テストの点数が悪くて落ちこんでいました。帰ろうと校門を出ると、見守り隊の方が「おかえり。」と笑顔いっぱいであいさつをして下さいました。いつもはふつうのあいさつとしか思っていないかもしれませんが、今日はなぜかとても心がポカポカして、テストの点数が悪くて少しモヤモヤしていたけどその気持ちがふっとびました。私は落ちこんでいたけど元気になれたので、これからもみんなが気持ちよくなれるようにあいさつします。



ありがとう

「ありがとう」という言葉は魔法の言葉です。なぜかというとなんか人を笑顔にさせるからです。私は、この言葉で笑顔になれました。ある日学校の休み時間、外で遊んでいたらころんで泣いている子がいたので、保健室まで、つれていってあげたら、すぐこっちを見て、「お姉さんありがとう。」とやさしく言ってくれたのです。今も、思い返すとすぐくうれしかったです。このけいけんで色いろな人をこの言葉で笑顔にさせたいと思います。



小学生高

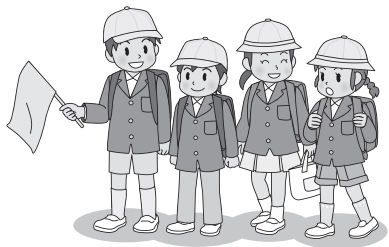
ひやくえん
百円

スーパーに行ったとき、カウンターのところで小ぜにを数まい落としていたおばあさんがいました。ぼくは、「拾ってあげなくっちゃ。」と思い、小ぜにを拾うのを手伝いました。そのあと、いっしょに来ていたおばあちゃんと買った物をかたづけしていると、さっきのおばあさんが来て、「ぼく、百円あげる。」と言われ、最初はことわったけれどおばあさんが「いいよいいよ。」と言ってくれたのでありがたくもらいました。ぼくはとてもうれしかったです。



ぶん団だんきでありがとう

私わたしは、友達ともだちにぶん団だんきを渡わたしました。
 そうすると、友達ともだちが「ありがとう。」と
 言いってくれてとてもうれしかったです。
 その次つぎの日ひに、ありがとうと言いってくれ
 た友達ともだちが私わたしにぶん団だんきを渡わたしてくれまし
 た。その時とき、私わたしは「ありがとう。」と言いい、
 二人共ふたりともとっても笑顔えがおになりました。それ
 からは、二人仲ふたりなかよく毎日まいにちのように、ぶん
 団だんきを渡わたして、渡わたされて
 をくり返かえすうちに、休やすみ
 時間じかんも少すこしおしゃべりを
 したりして、とても仲なかが
 よくなりました。



お父さんが鼻歌を歌いだした日

ある日、父が鼻歌を歌っていた。ぼく

は、(今日父は機げんがいいみたいだな。)

と思った。父は、

「機げんがいいわけではないけど、鼻歌

は体にいいと本に書いてあったんだ。」

と言った。ぼくも、父のまねをして、鼻

歌を歌ってみた。母もつられて、鼻歌を

歌っていた。鼻の奥がくすぐったくって、

体にきいているような気がした。なんだ

かみんな、楽し

い気分になっ

た。



障がいのある方へのやさしさ

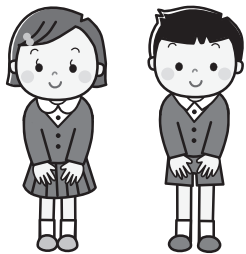
横断歩道で信号待ちをしていると、男の子がやってきました。その後、白いつえをついている視覚障がいの方が歩いてきました。信号が青に変わった時、そばにいた男の子が白いつえを持った視覚障がいの方のかたをポンポンと軽くたたいて、「信号が青に変わりましたよ。」と言っていました。その方は、うれしそうに、「ありがとうございます。」と言っていました。

私も男の子のよ
うにやさしさを大
事にしたいです。



当たり前のことだけど…

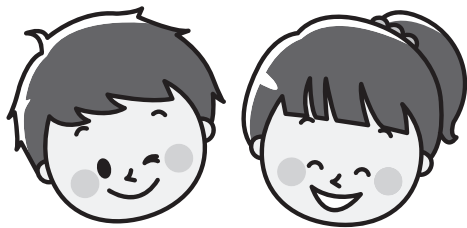
今日は、登校してから下校するまで「ありがとう」が飛びかう一日でした。「黒板消してくれてありがとう。」「プリント配ってくれてありがとう。」「呼びかけてくれてありがとう。」「係活動をするのは当たり前だけど、それにありがとうをい言わないかでは全くちがいます。言えばみんなが笑う温かい学級、言わなければ、だれも笑わない冷たい学級になってしまいます。私が目指すのは温かい学級です。私は、この「ありがとう」を広めていきたいです。



笑顔であいさつ

朝、いつものようにぼくが集合場所に
行くと、同じ班の子が、コロナ対策で声
に出してのあいさつは出来ないけれど、
アイコンタクトであいさつをしてくれま
した。元々大きな声であいさつをしてく
れる子でしたが、気持ち伝わってきて
自然とぼくも笑顔で返せました。

ぼくは生活委員長なの
で、この「笑顔のあいさ
つ」を広めて、コロナウ
イルスがはやっている中
でもあいさつあふれるH
小にしたいです。



ひいおばあちゃんのために…

私は祖母といっしょにお墓参りに行きました。このお墓には、私が三才の時に亡くなってしまったひいおばあちゃんがねむっています。なので、お墓のすみまですポンジでふき、辺りをほうきではいて、がんばってそうじをしました。最後にほおずきを供えようとした時、「明るい色のほおずきに向かって天国から帰ってくるんだよ。」と祖母が教えてくれました。ひいおばあちゃんが天国から帰ってくる時にきれいな墓を見て喜んでくれると嬉しいです。



今だからできたこと

今年は、新型コロナウイルスの關係で、
ハイタッチや外食などができない中、近
所のおじさんが周りの家に、おじさんの
手作りのはがきをポストに一けんずつ入
れていました。私の家にも届きました。
それには、

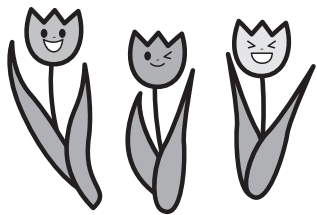
「みんなは今、いろんなことにがまんして
いる。それを続けければ、また昔のよう
になるよ。だから、みんながんばろう。」

と書いてありました。私
はそれを読んでもう少し
がんばろうと思ひ、心が
あつたかくなりました。



さすが、お姉ちゃん

私には、妹が二人います。その中で、まん中の妹と一番下の妹は、よくけんかをしています。よくその二人の妹らは、おもちゃの取り合い、ゲームなどでけんかをして、たたいたりしちやっている時もあります。ですが一番下の妹は、高い所にあるおもちゃは、まん中の妹、私、親でしかとどきません。とどかなくて泣いていた時、よくけんかをするのにもかかわらず、まん中の妹が取ってあげました。私はその姿を見てさすがお姉ちゃんと思いました。



知らなかった同級生の行動

ぼくの家いえの近くちかには、公園こうえんがある。その公園こうえんは、たくさんひとの人が利用りようしている。ある日ひ、公園こうえんに遊びあそびに行くと同級生どうきゅうせいのひとが「またちらかっている。ちゃんと後あと片づけかたづけをしるよ!」
 そう言いながら水風せんみずふうせんのゴミ拾いごみひろをしていた。遊びあそびに来たきのにゴミ拾いごみひろ。本ほん人もいやなはずだ。
 そういう人ひとがいるから、公園こうえんの清潔せいけつさは、保たれてたもいるんだ、そう思い手伝てつだい始めたはじめた。



かるくなった心こころ

友達ともだちとけんかした時ときに、心こころの中なかは少すこし重おもかったです。だから「ゴメンね。」と言いわなければと思おもいました。□くちで言いうのは、はずかしいから手紙てがみを書かこうと思おもいました。

すると、その友達ともだちが手紙てがみをくれました。私わたしはまだ書かいていなかっただけで、相手あいても同おなじことを考かんがえていたと思おもったら、心こころがかるくなりました。



中学生

私と友達

「大じょうぶ！ほら笑って！」これが私と友達でよく言いあっている言葉です。私がおちこんでいる時は友達が「大じょうぶ！ほら笑って！」と言い、友達が「おちこんでいる時は私が「大じょうぶ！ほら笑って！」と言います。決まっています。もう私と友達のおきまりの言葉となっていて、おちこんでいる時に、この言葉を聞くとすぐ心が温まります。友達達の心も温まっていたらいいと思います。



母が言った言葉

私はハムスターを飼っていましたが、
 じゅ命が短いのもういなくなってしまう
 いました。お墓をつくって、お供えもの
 としてヒマワリの種を置いておきまし
 た。1カ月後、久しぶりに見にくくと、
 芽が出ていました。このことを母に言っ
 と、「この子が咲かせてくれたのかもね。」
 と言ってくれました。そう思うようにな
 り、毎日水をあげました。小学3年生の
 時に言われました
 が、今でもはつきり
 覚えています。



中学生

「卒業」と書かれたオムライス

三月二十五日。小学校を卒業した。今年
は新型コロナウイルスが全国で広がり、
二月半ばであと一ヶ月の学校生活も
休校となり、最後の最後までみんなと思
い出を作ることでもできず、卒業式も一時
間で終わってしまう本当に寂しい卒業式
でした。なにもかもがちゅうとはんぱに
終わってしまい、とても悔しい思いをし
ていました。夜ご飯のとき、私の大好き
なオムライスに「卒業」という文字が書かれてい
て、自然と涙があふれ出てきました。



中学生

小さな応えん団

わたしが自室で勉強していると、ドアのすきまから、ちいさな紙がはいってきます。その紙には、きまって「がんばれ」や「ファイト」などの応えんの言葉がきれいじゃないけど、いいいな字でかかれています。私には妹がいます。妹がいつも応えんしてくれているんです。わたしはその紙をちいさなハコにいれて保管しています。このハコを見ると私はとてもあたたかい気持ちになります。この紙たちは私にとっての小さな応えん団です。



中学生

見^みていない所^{ところ}で

私^{わたし}が六年生^{ろくねんせい}の時^{とき}に、自主^{じしゅ}的なボラン^{てき}ティアでゴミ拾^{ひろ}いをしていました。そこは、草^{くさ}がたくさんはえていたので、ゴミもよく見^みないと分^わからない所^{ところ}でした。そこには、カンや紙^{かみ}オムツ、タバコ、レジ袋^{レジぶくろ}がよくすててありました。でも、これをしていて、何^{なん}のいい事^{こと}があるのだと思^{おも}い、お母^{かあ}さんに聞^きいてみました。すると、「見^みていない所^{ところ}で、一生^{いっしょう}懸命^{けんめい}やること^{こと}が大切^{たいせつ}なんだよ。」と言^いいました。そのちよつとした言葉^{ことば}ですくわれま^ました。



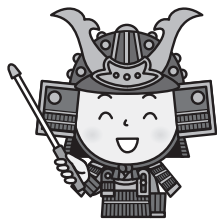
中学生

ありがとう

わたしは、小学校四年の時から町の歴史ガイドに参加しています。ガイドでは町へ観光に来てくださった方に史跡案内をします。また、海外からみえた方には英語でガイドします。

説明するのはとてもきん張しますが、ガイドしおえた後ほっとしたとともに、観光客の方々が「ありがとう。」と笑顔で帰られるのを見て、とてもうれしい気持ちになります。

これからもガイドを続け、町のすばらしさを伝えていきたいと思っています。



中学生

悪口を言われていた私に

私は、5年生の時にひどく悪口を言われていました。その時、何もできなかった私に、「なんでそんなことを言うの、かわいそうだよ。」と言って助けてくれた友達がいきました。その言葉と、とっさの行動をしてくれた友達には、とても感謝しています。

今では、私が助ける側になっています。あの時、何もできなかった私に勇気を与えてくれた友達に、とても感謝をしています。



中学生

傘にかくされた思い

学校からの帰り道、差した傘が何度も同じ音をたてる雨の中、私は歩いていった。ここ最近、雨が降り続いてきたため、心も雨模様だった。

そんな時、道ばたをじっと見つめる男の子を見つけた。すると男の子はいきなり、手に持った傘をそのまま道にたてかけて駆けていった。気になった私は近づいて見てみると、傘の下には一輪の小さな花がしずくを身にまとって咲いていた。

私の心に太陽が顔をのぞかせた。



中学生

おお
大きな宝物
たからもの

私の祖父は、畑をしていました。季節
がかわって野菜が実るとかごいっぱい
持って、言います。

「俺が育てた宝や。たんと食べよ。」

私は、その時の祖父の笑顔が大好きで
した。そんな祖父がある日、突然他界し
ました。私は次の日畑に行ってみました。
たくさんの野菜が実っていました。いつ
かの祖父が言ってい

た言葉をふと思いだ
しました。

「CとSは俺の一番
の宝やな。」



家族が笑うこと

家族で食卓を囲むと、みんなが自分を見て笑います。失礼じゃないかと思いましたが、毎日つづくこと慣れてきました。いつも言い訳で、「あんたがおると楽しくて、おもしろいで笑うんやて。」と言います。ばかにされているようでくやしいけど何かうれしいと思えました。改めて、家族と一緒に居ることの楽しさ、うれしさを知りました。これから毎日笑ってもらえることが幸せと思えそうです。



誰かのために出来ること

出かけの帰り、歩道で少しずつ進んでいる車いすの男性をみかけました。その日は、すごく暑く、日陰の少ないところだったので、私と母はその人のことが心配になり、近くのコンビニへ行って麦茶をかってきました。そして、男性に声をかけると初めは恐く感じました。ですが、麦茶を渡すと、男性は「麦茶好きです。ありがとうございます。」と喋ってくださり、私と母はとても温かい気持ちになりました。



自分らしさ

ある日、私は学校や部活、家でも自分の居場所がないようで、どこに行っても苦しいときがありました。とくに人の目を気にする私は外に出るのもこわくなりました。それでもたった一人だけ本当に信用できる人がいて、その人に相談しました。すると、「あなたはいつも無理してちがう自分を作ってる。自分らしくいればいいんだよ。」そう言われた日から私は、人の目を気にせず自分らしく前にせむきに生きようと思えました。



中学生

みんなのために頑張る人達

新型コロナウイルスの関係で、様々な祭りやイベントが中止になり、夏の風物詩の花火があまり見れなくなっています。

そんな中、関市では、コロナウイルスの収束を願い、花火が打ち上げられました。

私は、世の中を良くしようと頑張っている人に感謝して、今ある命を大事にしたいと思います。

そして、前を向いて笑顔で心ひとつに進んでいきたいと思っています。



言葉遣い

買った物か ものに行いった時ときに外がい国こく人じんの店てん員いんさん
 が、慣なれない日に本ほん語ごで一いっ生しょう懸けん命めい接せつ客きゃくして
 いて、すずいいななと感かん心しんしてまました。けけど、
 後うしろのほうで

「綺きれ麗いな日に本ほん語ごしゃべれや。」

と野や次じをとばした方かたがいて、店てん内ないの空くう気き
 が一いっ気きに悪わるくななって、自じ分ぶんも少すこし気き分ぶんが
 悪わるくななりました。その時ときに

「もの凄すこく汚きたな日に本ほん語ごですね。」

と、野や次じおじさんの後うしろに立たっていた高こう
 校こう生せいが、数すう秒びょうで空くう
 気きを綺きれ麗いにしてく
 れました。



中学生

この身長だからこそ

私は部内で一番身長が低いです。バレーボールは身長が高いほど有利なんです。練習でも、ボールはネットにひっかかってばかりで、すごく悩んでいました。でも、そんな時先輩が「逆にさ、それで決めたら格好良くない？」と声をかけてくださいました。私はその時、（たしかに…この身長だからこそなんだ。）と思いました。その日から、私は前よりずっと前向きな気持ちでバレーボールに挑むことができます。



中学生

あいて
相手に優先でできる仲間
なかま

私^{わたし}が加入^{かにゆう}している美術部^{びじゆつぶ}での出来事^{できごと}です。家^{いえ}に作品^{さくひん}を持って帰^{かえ}る時^{とき}に友達^{ともだち}が絵^えをまとめる用^{よう}のゴム^{ゴム}を持ってきてくれました。私^{わたし}が「ありがとう。」を言^いおうと、その友達^{ともだち}を見ると友達^{ともだち}はひもで作品^{さくひん}をまとめていました。私^{わたし}はその時^{とき}、友達^{ともだち}は自分^{ぶん}を犠牲^{ぎせい}にし、ゴムが一つ^{ひとつ}しかなかったことは私^{わたし}に言^いわなかったのだと分^わかりました。友達^{ともだち}の心^{こころ}の広^{ひろ}さに驚^{おどろ}き、感動^{かんとく}しました。私^{わたし}も友達^{ともだち}のように自分^{じぶん}を犠牲^{ぎせい}にできるような心^{こころ}の広^{ひろ}い仲間^{なかま}になりたいです。



あの日、父と交わした約束

僕は中1のときに、父親が病気で亡くなってしまいました。父親とある約束をしていました。その約束は「Yが大人になったら一緒に酒を飲みに行こう。」という約束です。ですが、父が亡くなって、その約束を果たすことが出来ずに終わってしまいました。なので父と交わした約束を祖父に頼んでみました。そして、「待ってるぞ。」と言われ、自分はとても嬉しい気持ちになったし、「父の分まで長生きしよう。」と思いました。



手伝うよ

ある日、僕は一人であいさつ活動を始めました。それは、校門の前に立ち、みんなにあいさつをする、というものです。友達には何も言わず、たった一人で始めることに少し抵抗があったけど、思い切って始めてみました。すると、初日から「手伝うよ。」と言って三人の仲間が来てくれました。そのあいさつ活動は、今では全校に広まりつつあります。僕は仲間がいることの喜びと、人と人との繋がり大切さを実感しています。



買い物での出来事

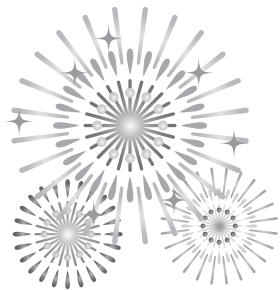
先日、母に頼まれて、じゃが芋だけをスーパーに買いにいった。夕方だったので、レジも混んでいたが、先に並んでいたおばさんが、僕の手を持ったものを見て、「先にどうぞ。」と、会計をゆずってくれた。混んでいたレジに、少しだけイラつきながら並んでいた自分はずかしいのと同時に、さり気ない優しさに、温かい気持ちになった。せわしない毎日だが、心にゆとりをもつて、相手のことを思いやる心を改めて教えてもらった。



中学生

夏のサプライズ

中学最後の夏はどんな思い出になるんだろう。そんな感情はコロナ休校によって不安と変わった。生まれて初めての受験生で暗い気持ちで机に向かう日々が続いた。ある夜、急にドーンと音がした。外を見ると赤い打上花火が遠くに見える。祭りも海もない夏だと思っていた私にとってはサプライズのように嬉しかった。すごく力になった。だから私は、前向きに勉強と向き合おうと決めた。中学最後の夏を明るく照らしてくれてありがとう。



中学生

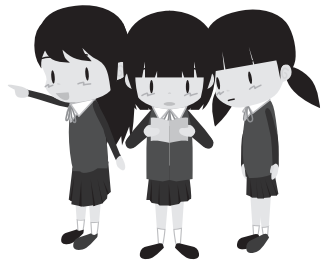
励ましの言葉が新たな一歩へ

私は、小学生の頃から「リーダー」という係を沢山してきました。

中学生になり、みんなの心も変化して、私がリーダーとして呼びかけると、心ない言葉を言う子も出てきました。

傷ついて悲しんでいた私に、ある子が「大丈夫だよ。私はあなたが頑張っていることをずっと知ってるよ。ついていくからね。」

と励ましてくれました。
私は、とても温かい気持ちになり、新しい一歩を踏み出せました。



中学生

少しは休んでいいんだよ

「頑張りすぎじゃない。少しは休んでいいんだよ。」そう友達が言ってくれた。次の日に単元テスト・小テストが重なって頑張りすぎて夜おそくまで塾にいた日。学級委員になって学級のリーダーとして頑張ったけど上手いかなかった日。精神的・肉体的に苦しかった時、その一言でいっきに気持ちが楽になった。その一言で視野をもっと広く持ち、全員を見れるようになった。頑張りすぎてもいけないことがあると気づけた一言だった。



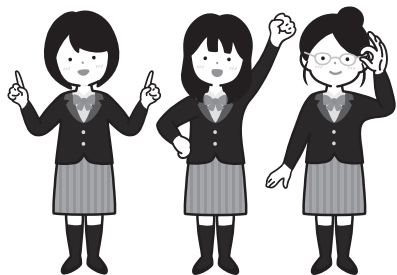
中学生

ちよつとしたこと

わたしは、今日も一人だ。中学一年の冬に転校してからクラスになじめず、常に一人でいた。前の学校に戻りたいと思うが、そう簡単にうまくいくことはない。

そんなある日、移動教室のため教科書類を持ち、教室を出ようとすると「一緒に行こ。」と二人の女の子が声をかけてくれた。私は、「うん。」と返事をし、その子たちと教室を出た。

私は、今日は一人じゃなかった。



ハンカチ

私のおばあちゃんは、箱に五十円玉を
 たくさん貯めて、私にくれます。毎回く
 れるので私はいつか恩返しをしたいなど
 思い、おばあちゃんのくれるたくさんのお
 五十円をポスト型の貯金箱に貯めること
 にしました。それから半年ぐらい経って
 おばあちゃんの誕生日が近づいてきたの
 で貯金箱のお金で良いハンカチを買っ
 て、手紙と一緒にプレゼントしました。
 そしたら、おばあちゃん
 は泣きながらとても喜んで
 くれました。あげられ
 てよかったです。



中学生

困こまっている人を見みかけたら

私わたしがまだ中学一年生の時とき、登校中とこうちゅうにか
ばんをくくるひもがタイヤにからまって
とれなくなってしまうました。なかなか
ほどけず、苦戦くせんしていると近くちかにいたお
ばあさんが、ほどくのを手伝てつだって下さい
ました。私わたしがお礼れいを言いうと、「私わたしがあな
たを助たすけた分ぶん、他ほかの子こが困こまっているのを
見みたら助たすけてあげてね。」と言いってもら
えました。私わたしもこのおばあさんのように
困こまっている人を見みかけたら助たすけてあげよ
うと思おもいました。



中学生

お母さんの優しさい

私が学校に行く時、外に出て家を出ようとする時、毎日私のお母さんが、「いつてらっしゃい、気をつけてね、頑張つてね。」と窓から声をかけて見送つてくれます。私は、中学に通い三年ほどたっているけれど、母はまるで中学一年生を見送るように見送つてくれます。少しの恥ずかしさがあったけれど、心の中ではとてもうれしいです。だから私は、「学校頑張ろう。」朝から心がすっきりとした気分や気持ちになります。



中学生

おばあちゃんと葉書

私は、施設で過ごすおばあちゃんによく葉書を送る。少し家から距離があり、なかなか会いに行けないからと小学生の頃から始めた。毎回送るとお返しの葉書が届けられる。私や自分の子どもの名前も忘れてしまうおばあちゃん。葉書には、自分の名前などしか書かれていない。でも、今回送られた葉書は違った。

「Sちゃん、ありがとう。」

私の名前とありがとうの言葉。それだけであれしかった。私はこれからもおばあちゃんに葉書を送り続ける。



中学生

何も言わない優しげ

私には、「なんで」「どうして」「何があつたの」とすぐに聞いてくる年下の友達がいる。ある日、私は学校でうまくいかなかったことがあり、泣きそうになりながら下校をしていた。するとたまたまその友達が私を見つけ、かけよってきた。「何も聞かないでほしい。」その一心で私はそれけない対応をしてしまった。すると、その友達は嫌な顔ひとつせず、私の隣を黙って一緒に歩いてくれた。私はその友達の優しさに、思わず泣いてしまった。



高校生

やさしい事も心を救う

今年も春を迎えて新しく高校生活が始まりました。ほとんどが知らない人で、ターゲットした。深くは関わらないように思っていた。いつも電車で会う人。その人はクラスのムードメーカーでいつも明るく接してくれる。私が学校を欠席した時、ムードメーカーの子から1本の動画がきた。「今日いなくて悲しかった。早く学校きてね。」シンプルな言葉だったが、身近にそんな子がいることにありがたみを感じた。



誕生日

わたしの誕生日は、七月二十九日。例年通りであれば夏休み中のはずだった。今年は、コロナウイルスの影響で夏休みが短く、私の誕生日は学校があった。クラスメイト、部活の仲間や先輩からたくさん祝ってもらった。産まれて初めてこんなに多くの人に「おめでとう。」
と言われた。正直自分の中で誕生日は、そこまで大きなイベントではない。でも、今年の誕生日は悪くないと思えた。



大縄

中学校最後の体育祭、私たちのクラスは大縄が上手くできませんでした。私の隣で跳んでいた人が失敗して「私のせいで失敗ばっか。もう私抜ける。」と言いました。私は、このままじゃだめだと思い、「もう少し頑張る。私も苦手だけど、頑張るから。全員でやりたいからもう少し頑張る。」と声をかけました。すると、「ありがとう。最後まで頑張る。一緒に頑張る。」と言われて嬉しくなりました。本番で最高記録が出たのは最高の思い出です。



高校生

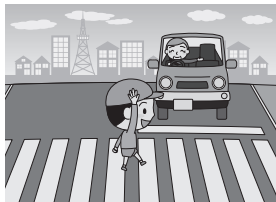
小学生の優しさ

私は、登下校の時、とある小学校の前を通ります。その学校の正面には横断歩道があり、多くの生徒がそこを渡って校門へと向かっていきます。その日はタイミングが悪く、丁度彼らが渡っている場面に会ってしまいました。私は、渡り終わるまで待つつもりでした。ですが、渡り始めていた者は急ぎ足で、また渡り始めていなかった者は止まり、私に道を譲ってくれました。朝からとても嬉しかったです。



アイコンタクト

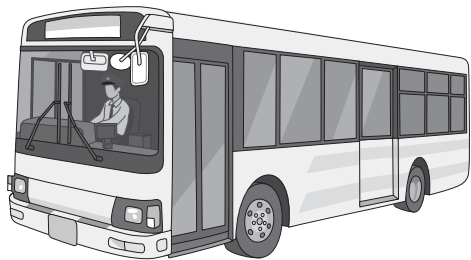
私が学校から帰る道に、信号のない横断歩道があります。その為、思いやりで横断します。この日はめずらしく向いに小学校低学年ほどの小さな男の子がいました。かわいいなと思いつつ、車が止まりました。私が見ると、男の子は運転手の人を見てとて丁寧にお辞儀をしました。私は、止まってくれた心遣いに対してお礼が疎かになつていたことに気づき、男の子は礼儀を忘れず持っていて素敵だなと感じました。



高校生

バスでのうれしかったこと

学校からの帰り、バスに乗っている時の出来事です。その日のバスは満員で、そこにおばあさんが乗ってきました。私は、ゆずるべきから分くらい悩んでゆずろうと思って「席どうぞ。」と言ったら近くにいた高校生と同じタイミングで言ってしまうました。どうすれば良かったか考えて黙っていたら、おばあさんが笑って「ふたりともありがとう。」と言ってくれたので、とても嬉しかったです。



見つけた幸せ

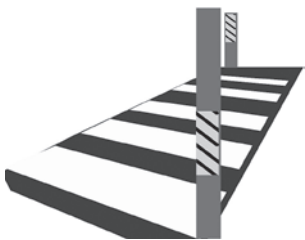
私は、家族の記念日に、必ず手紙を送っている。この前、リビングを掃除していたら、不揃いな大きさの紙がたくさん入ったファイルを見つけた。不思議に思っ中をのぞいてみると、それは私今までに送った両親あての手紙だった。中には下手な字で書かれた、私が覚えていないほど昔のものもあって嬉しくなかった。照れくさくてあのファイルを見つけたことは言えないけど、それから手紙を送るのがちよっと楽しみになった。



高校生

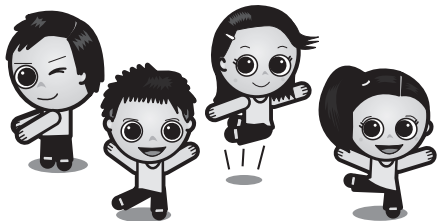
わたしの心が優しくなるとき

学校への登下校中、道を渡らなければいけないところがある。車が通っているので、私は、いつも車の通りが少なくなるのを待ってから渡っている。時々、私がいることに気がついて車がとまってくれる。それだけでもとても嬉しいのだが、その中に私がお辞儀をすると「ニコッ」とほえんでくれる優しい人がいる。その瞬間、私の心も優しくなる。将来、こんな大人になれたらいいなとそのたびに思う。



練習

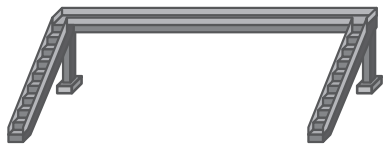
文化祭の練習で初めてダンスのステップをやったとき、仲の良い友だちが、上手く出来なくて落ち込んでました。自分は、教えながらも「ゆっくりでいいよ。まだ日にちはあるからね。」と言いました。そしたら、次の日の練習で、その子は、ステップを出来るようになってました。「家で練習してきただんだなあ。」と思い、とても嬉しく感じました。自分の言葉が少しでも響いてくれたら、より嬉しく感じます。



高校生

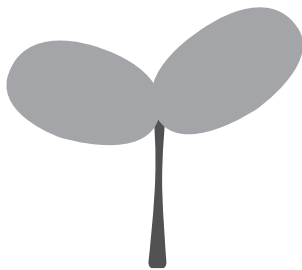
私の時間

「手伝いましょうか。」「ありがとうございます。」「
ぎいます。」視線の先には、先程足早に
私の横を通り越していった男性と妊婦さ
んの姿があった。「下まで運びますね。」
と声をかけると男性は、妊婦さんが抱え
ていたスーツケースを軽々と持ち上げ、
たった今、上りきったはずの歩道橋をか
け下りて来た。偶然その場に居合わせた
私は、温かくて幸せな気持ち
になつていた。誰かの為に時
間を使うことは、贅沢で貴重
な時間の使い方なのだ、私
は改めて痛感した。



一本の草

一ヶ月前の朝、家の前の歩道のアスファルトの割れ目から一本の草が生えていました。その日、学校から帰宅すると、その草の周りを囲うように石が丸く並べられていました。毎朝、その石が崩れているのを見ましたが、帰宅する頃には必ずきれいに並べられていました。ある日、いつもより早く帰宅すると、草が生えている所に小さな女の子が二、三人集まって石を並べ直して、水をあげているのを見ました。草はかなり成長しました。



高校生

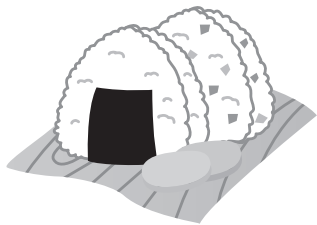
毎朝の出来事

わたしは、毎日学校に向かう時、目の自由な高齢の男性に会う。男性は、つえをたよりに歩いている上、道がせまく、意識していないとぶつかる可能性がある。通学、通勤の時間帯のため、出会う人、出会う場所は大体いつも同じである。朝は時間がなく、いそいでいる人も多いが、その男性と出会う場所になると高校生も大人も自転車のスピードを自然に緩める。たくさんの方が男性が歩くのを見守っていて心が温かくなった。



母のおにぎり

私は、今年の夏休みに自習室に通っていた。その間、母がお昼ご飯としておにぎりを用意してくれた。最終日、おにぎりをくるんだラップにマスキングテープが貼ってあった。「今日で最後だね。自習お疲れ様。」と書いてあった。いつも私の好きなことを理解し、やりたいことを応援してくれる母の優しさを感じた。言葉で感謝を伝えるのは難しいから、頑張る姿や結果で感謝を伝えていけたらいいなと思う。いつもありがとう。



一般

思いやりの心

今から五〜六年前、我が家の末っ子が
小学校低学年の頃、インフルエンザに
なってしまい高熱でひどく苦しんでいた
時、弟のことを心配した兄姉が「こんな
小さな子が苦しんで、かわいそう。代わっ
てあげたい。」と言ったことがあります。
それはいつも母が子どもたちに何かある
と語っている言葉です。弟思いの優し
い兄姉に育ってくれてありがとう。今は、
コロナが流行してるけど、その思いやりの心
があれば大丈夫だ
と思います。



令和2年度 ちよつといい話

令和2年12月発行

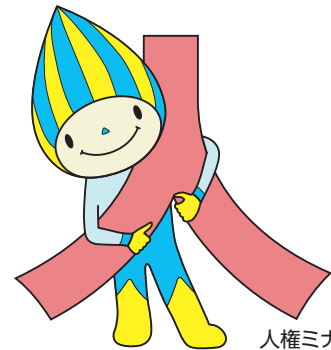
編集 岐阜県環境生活部 人権施策推進課

〒500・8570

岐阜県岐阜市藪田南2・1・1

TEL 058・272・8250 (直通)

FAX 058・278・2615



人権ミナモ

岐阜県環境生活部 人権施策推進課

※この冊子は、法務省委託事業により作成されています。